

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100694		
法人名	ケアサプライシステムズ 株式会社		
事業所名	グループホーム ひなげし		
所在地	群馬県高崎市高浜町1027-11		
自己評価作成日	令和2年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=1072100694-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和2年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在コロナ禍であるが、ご家族や地域ボランティアの代表と連絡を取りつなかりを保つようになっている。また、利用者様が安全に安心して健康で過ごせるように職員一同で取り組んでいる。イベントの減少もあるが出来る限りで利用者様に季節を感じてもらい、笑顔が毎日見られるよう力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍にあっても長いお付き合いのある地域のボランティアと連絡を取り合っており、情報交換をしたり、人数を減らして花の世話をしてもらうための訪問を受け入れている。現在のような状況下にあっても地域住民との関わりを保ちながら、外部の目を入れることは大切で、利用者、家族の安心にもつながる。その実現のための工夫ある取り組みがうかがえる。また、前回の外部評価の結果に対して真摯に取り組んだ努力の様子がうかがえる。玄関の開錠や食事、入浴支援、プライバシーの尊重における課題に対して、職員が目標を持って今できることを実行し、積み重ねていくことで成長し、目標を達成していく。その姿勢に好感が持てた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念・ホームの理念を作成し、玄関や事務所に掲示をしている	入職時に法人、事業所の理念についてスタートブックに基づいて指導し、事業所内に掲示している。職員の朝の挨拶、介助の際の声かけ等の様子から、理念を理解していると受け止めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在のコロナ禍においても地域ボランティアの代表と連絡を取り、利用者様との繋がりを模索しながら関わっていただいている	地域の代表者と連絡を取り合い、協力を得て花の世話等をしてもらったり、回覧板や地域住民を通して情報交換をしている。隣接の施設のイベントに参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議実施できないが、各ご家族や関係機関に資料を配布し理解をしていただけるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催を予定しているが、開催できない為資料を配布している	隔月で書面開催とし、議事録を家族、区長、ボランティア、支所に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告等担当者への報告を担当がおこなっている	法人の課長が担当し、市の担当者と連絡を取り合い、連携を図っている。また、管理者、ケアマネージャーが介護保険の更新代行や、認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議、運営推進会議等で取り上げている	3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開いている。玄関は開けられる状況にある時は開錠し、他の拘束はない。元年の秋頃より少人数で身体拘束、虐待についての勉強会を再開している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で勉強会をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来苑時や電話などで対応している	利用者からは日常的に話を聞いたり、職員が話しかけて意見や要望を引き出すよう努めている。家族とは電話連絡や書面を通して、意見や要望を募り、具体的なサービス提供に活かしている。	コロナ禍であるから面会ができないというのではなく、利用者を心配する家族の希望に沿って、面会方法を検討してみたいか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ感染防止の為職員会議は出勤者のみで行い意見等出してもらっている。出席できない職員は管理者が個別で意見を聞き反映に努めている	現在、職員会議は出勤者のみで行っているが、職員から意見や提案は出ている。職員間の関係性にも考慮し、新入職員であっても発言し易い雰囲気があり、業務の運営や実践に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染防止に徹底している為研修等の参加は控えていただく代わりに資料や管理者と職員とでさまざまなことを仮定し技量の統一を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にて資料を配布したり、他所との連絡等を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えがある時には傾聴し対応に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、来苑時、電話等にて伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に添えるように実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	幼少期から今までの生活状況を伺う機会を作り		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来苑時に情報や意見の交換をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にご家族より許可のある知人や関係者の来訪は取り次ぎ関係性が途切れないようにしているが現在コロナ感染防止の為オンラインでの面会を実施している	同じ地域から入居している利用者が仲良く生活できるよう支援している。毎月、家族が気に入った物を届けに来たり、縫物や編物、植木の世話、新聞購読等、これまでの生活の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のトラブルが起こらないように職員が間に入り見守り・声かけを行いながらしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望・希望や移動先の施設等と連絡を取ったり他の事業者の案内・紹介をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人本位を念頭に重視に努めている	利用者と会話をする中で、その時々々の思いや意向を把握し、ケアマネジャーに報告したり、ノート等に記録し職員間で共有している。また、本人本位を重視し、利用者の思いを家族に伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族に伺いサービスの中に組み入れられるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・記録によって把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと連携をはかりその都度状況に応じて対応をしている	カンファレンスで利用者やケアについて話し合い、ケアマネジャーが毎月モニタリングをしている。3ヶ月毎に介護計画を見直し、担当者会議を開き、利用者の状態に合った計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員で記録を行い日々の状態を把握と情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に応じて随時対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ感染防止の為慰問や外部の来苑を控えてもらっているが職員にてレクリエーションや季節のイベントを開催している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1で往診に来ていただいている。また利用者様の急な体調変化や緊急時には対応していただいている	利用者全員が毎月協力医の往診を受けているが、急変時の対応も依頼することがある。必要に応じ、毎週訪問歯科の往診を依頼し、本人、家族の希望を確認した上で定期検診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1の訪問や電話にてご利用者様の状態報告や体調の変化・緊急時には対応していただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在面会制限等ある為担当者と電話にて状態確認や情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・訪問看護師と相談しカンファレンス等で検討し、推進会議の資料にてご家族と話し合い等している	重度化、終末期の対応については協力医から協力を得られるが、これまで看取りの事例はなく、現在も看取りを希望する利用者はいない。希望があれば職員間で勉強会を開くことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議にて定期的に勉強会を行ったり、シミュレーションを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の連絡先に区長様・地域ボランティアの代表の方・大家様に通報依頼を受けていただいている	年2回の総合訓練を実施し、地域との協力体制もできている。また、地域特有の災害はないことや避難所を確認している。備蓄として3日分の粥等の食料品、排泄用品、消毒液等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や人格を見極め自尊心・プライバシーを損ねないように対応しカンファレンス時に職員間で情報の共有をしている	呼称は苗字にさんを付けている。入室の際はノックし、また、異性介助の際は声かけをして了承を得ている。生活のペースを大切に、利用者間の力の差が表面化しない配席を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おひとりおひとりの表情や仕草を観察し状態に合わせて声かけを行い自ら決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はせずにレクや行事など日々の生活に常に選択肢を用意してご本人のペースで過ごしていただけるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪を依頼しているがコロナ感染防止により散髪屋さんの都合で不定期に来て頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し誕生日やイベントには何が食べたいか希望を聴き出来るだけ副えるように努めている。またお手伝いが出来る方には声かけをし下膳等していただいている。	食材を職員が用意したり、生協や配食を利用し、食事を提供している。誕生会や敬老会等のイベント時には利用者の希望を聞いてケーキや食事を提供し、飲み物は好きな物を聞くようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を計測しその方に合った量や体重の増減を把握し食事量を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の先生に相談し個別での対応やケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にトイレの声かけや誘導を行い トイレでの排泄に努めている	「できる限りトイレで排泄を」という思いで、職員は支援している。おむつ使用からリハパンツに移行し、トイレ誘導で排泄ができるようになった利用者もいる。チェック表や間隔によって声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操や個別でのお手伝い、身体機能をいかしたレク等実施し食事や水分量の計測している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴を実施基本的には3人様ずつだが希望があれば入浴していただけるようにしている	入浴は週2回とし、毎日声かけはしていない。拒否者には清拭をしている。入浴は本人の意思を尊重し、無理強いをしない対応をしている。用意や身体を洗うこと等自分であることを支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由にさせていただいている。安全に安心して休んでいただく様努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員会議で確認をし、職員がいつでも資料を確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態や能力を考慮し安全に出来る様見守りや声かけを行い、ご本人の選択により手伝いをさせていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には安全に外出が出来る様努めている。現在はコロナ感染防止の為ドライブを計画したり苑庭での日光浴になってしまっている	陽気の良い時期には庭に出てお茶を飲んだり、日光浴をしたり、花を眺めている。仲の良い利用者同士でドライブに出かけこともある。また、職員が付き添って個別で買い物に行く支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かっており希望時に渡すように努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族・知人の方からの希望があれば常に対応できるよう努めている。現在面会制限中の為オンラインで対応中		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクなどで季節感の有るものやイベントを開催している。また掲示物も季節に合ったものを展示したり努めている	テーブルは3卓、季節毎、月毎に飾るものを変えている。カーテンを開け外の景色を眺めたり、窓を開け換気をしたり、外気によって季節の変化が感じられるよう工夫をしている。献立、カレンダーもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の自由に過ごしていただきトラブルにならないよう見守りをしながら職員が間に入り過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族が望む物・馴染みの物を居室へ持ち込んでいただけるよう説明し伝えてはいるが、希望や持込はあまりみられない	起床時には窓を開けたり、換気扇で換気をしている。エアコンで室温を保ち、居室で編物をしたり、思いのまま過ごせるよう支援している。引き戸の小窓も目隠しをし、個人のプライバシーに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は車イスですれ違いが出来るくらい広く、居室の間取りも広く日当たりも良い、トイレも遠くからでもわかるようにしてあり扉にも掲示している。苑庭へは自由に行き来が出来るようにしている		